

作品制作現況

菅野正人



私の風景画制作方法について(水彩)

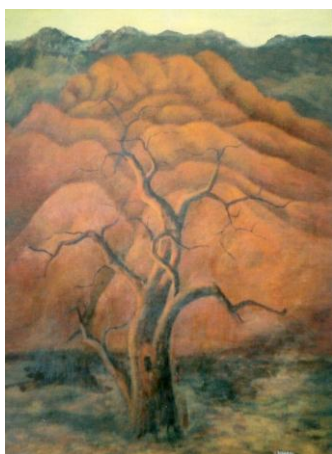
作品制作現況

竹林定夫

2011.8.25

写生地は、自宅から自家用車で約五十分、房総半島のほぼ中央部に位置するところに養老溪谷があり、同溪谷に入ると山肌には赤や黄の原色の紅葉が飛び込み、更に山間地に入ると山の風景に出会う。近景には山々が広がり、天候や時間によって左右されることもあるが午後を選び写生をすることにしました。

写生に当たっては、まず、材料用具の準備です。準備不足は仕上がりが中途半端になりやすいので必ず確かめる。下描きでは、実景と向き合い、感じたことや考えたことを見つけたことなどに視点を決め「何を、どのように」描くか決めます。描くときは、鉛筆(4B)を使い、前景の中央から中景、へと描き、中央の立ち木や平地から描き始め、山の奥行きや重なり、広がりなどに重点を置き、画面に形を配置しながら見直し決定線で仕上げた。彩色では、不透明絵の具を使い、混色分量、水の調整、筆使いなど表現意図によつて工夫し、中央の立ち木や平地から大まかに描き始め、山の奥行きや広がり、山肌に留意して描き込み、全体に配色しながら見直し、乾いてから、部分的



に混色して色を重ね、全体の色調を整えて完成とした。

掲載作品は、自宅で制作中のF50号で、二点同時進行で描いた。

下描きは、写生で描いた絵を基にしましたが、説明的にならないように、再度見直し、自分の心に残ったことを大切にしながら、茶コソテを使って、中央の立ち木や平地から描きはじめ、山の重なりや広がり、空などの形を配分しながら見直し、それぞれを確かめて、全体配分を整えた。

彩色では、アクリル絵の具を主に不透明絵の具を使い、混色分量、水の調整、筆使いなどを工夫し、表現意図にあつた手法を試みながら、中央の立ち木や平地、特に山肌に留意し奥ゆきや広がり、空などに色を置き、全体の色調を確かめながら見直し、乾いてから、混色で重ね単調にならないようにした。

此の掲載作品は、ここまでの制作です、続いて、これからの本制作について……中央の立ち木その他に平地の奥に二本の立ち木を入れ形を作り整える。山肌と立ち木との色の対比、平地や空は全体の色調を見て描き込み、ほぼ完成に近づいたら、全体の色調を見直し、仕上げに入りますが、特に部分的に慎重に色を重ね、再度全体を見直し、単調にならないようにして完成させる。

年会費・特別出品料納入のお願い

昨年と同様年会費と合わせ、特別出品料のご負担をお願いしております。

- 年会費 委員 ¥35,000
- 会員 ¥30,000
- 準会員 ¥25,000
- 会友 ¥20,000

35回展に出品される方は、上記と特別出品料¥10,000を納入してください。既に納入済みの方はご容赦願います。未納の方は出来る限り、早期納入をお願いします。35回展が滞りなく実行されるよう努力しておりますのでよろしくお願い致します。

郵便口座 0170-7-719971(新日本美術協会)  
お問い合わせ 会計 鈴木忠義 TEL045-832-0504  
携帯 090-3452-3564